

SQUARE



No. 107

習志野市国際交流協会会報
スクウェア 第107号
2014(平成26)年10月1日

発行 習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼 5-12-12
サンロード津田沼 6F 〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
http://www.nia08.com/
(Email)niasquare@m.jcnnet.jp

主な内容 CONTENTS

- タスカルーサ青少年訪問団来習——「並はずれて素晴らしい」
- タスカルーサでの体験——派遣高校生感想
- 習志野きらっと2014に参加しました

詳しい記事、およびカラー版がNIAホームページからご覧になれます

タスカルーサ青少年訪問団来習 「並はずれて素晴らしい！」

国際交流部会副部長 日向洋美

「習志野での2週間は派遣された高校生にとって、人生を変えるような素晴らしい体験でした。皆様の温かいおもてなしに心からお礼申し上げます。」... タスカルーサ姉妹都市国際委員会代表のリサ・キーズさんの帰国後の第一声メールです。

6月19日から習志野市を訪問したタスカルーサ高校生一行18名は、同日のホストファミリーとの顔合わせ会を始めに、市内の高校での交流、都内見学、富士山への一泊旅行、市内見学、市民との交流、京都・奈良見学を終え、7月1日帰途につきました。到着時は緊張の面持ちの学生たちも、日程をこなすにつれ打ち解け、ほぼ全員と毎朝夕ハグをするようになりました。

今回初めての試みは、市内の3高校での交流に加え、7月にタスカルーサに派遣する市内4校の高校生19人を富士山に同行したことです。最初はお互いに小グループに分かれ、なかなか交流が進まなかったのですが、帰国子女の生徒が中心となって夕方花火をする頃には皆打ち解けてきたようでした。若い時の交流は、両国の青年達にとって、全てが良い体験になったことと思います。

ハイライトは谷津干潟自然観察センターで行われた「さよならパーティ」でしょう。ハクビキもの学院の先生方が着物と着付けを提供してくださり、お箏の演奏中、入場した一行の嬉しそうな顔... 一人一人に聞いた日本の印象は、ほとんどが温かいおもてなしをあげ、話しているうちに涙が止まらない学生達も何人もいました。

最後になりましたがこの紙面をお借りして、ご協力いただいたホストファミリーの皆様、市や文化ホール・企業局・NIA事務局の皆様、そして数カ月間一緒に準備を重ねたボランティアスタッフに心からお礼申し上げます。リサ・キーズさんの今回の感想は、「Extraordinary! (並はずれて素晴らしい!)」でした。

タスカルーサ青少年訪問団を受け入れて

外国人支援部会長 山口大二郎

6月19日、タスカルーサより引率者2名を含む18名の高校生を成田空港で迎えました。さすがの長距離フライトで疲れた様子でした。

実はこの1カ月ほど前に、私は習志野からの派遣団の事前調査のためにタスカルーサを訪問した際、今回、習志野へ派遣するタスカルーサの生徒達のためのオリエンテーションの実情を聞くことが出来ました。オリエンテーションは週1回1時間で10講座を設定し、簡単な日本語、挨拶、習慣、食事、エチケット、日常生活などでした。タスカルーサの公立高校3校より選ばれた生徒達は日本への関心が高く、具体的に日本でどんな体験をしたいかなどを想像して、それを実現できるのを楽しみにしていたようです。

とても期待していた阿武松部屋の朝稽古見学を始め、浅草、東京ソラマチ、ウエルカムパーティー、フェアウェルパーティー、2日間の富士吉田研修旅行、江戸東京博物館見学、そして高等学校訪問ではスポーツ交流、オーケストラ鑑賞、柔道の模範演技、日本舞踊、書道体験、茶道、弓道など、日本文化を体験し喜んでいました。

梅雨シーズンの真ただ中、心配した雨にもほとんど遭わず、ハプニングも無く無事終了することが出来ました。これもホストファミリー、ボランティア、事務局、市の職員の皆様ご協力とご支援によるものです。紙面をお借りして心より感謝申し上げます。



6月28日、消防庁舎講堂での送別式

習志野市青少年派遣団訪米 互いの友情を深める貴重な経験

習志野市青少年海外派遣団長 山口大二郎

7月24日、日本から12時間のフライトでアトランタに到着しました。翌日はアトランタで、コココーラ社の博物館、マーティン・ルーサー・キングJRの生家や博物館を見学しました。その後、歴史地区を回り、3時間のバス旅行でタスカルーサへ向かいました。

タスカルーサに到着すると、ジェミソン・マンションで、先日来日した生徒とホストファミリーの皆さんが歓迎してくれました。生徒たちはハグをして再会を喜び合っていました。歓迎の挨拶やホストファミリー紹介の後、派遣生たちは嬉しさと不安を表情に浮かべながらホストファミリーに引き取られていきました。

タスカルーサでの毎日のスケジュールは実に豊富な内容が盛り込まれていました。

夏休み中でしたが、3校の学校訪問がセットされていました。それぞれの学校ではミュージック・バンドの演奏やチアリーダーの踊りで迎えられ、生徒や先生の案内で図書館、工作室、実験室、体育館、プールや、広大な敷地のフィールド・トラック、サッカー場、テニスコートを見学しました。そこでは派遣生たちもチアリーダーのパフォーマンスに参加したり、新しいデザインを作り出す授業をタスカルーサの生徒と一緒に受けたりしました。

生活体験では、プールパーティー、ホームパーティー、ピクニック、ショッピング、ボーリングを一緒に楽しみました。文化面ではアメリカ先住民の文化や風俗を展示したマウンドヴィル博物館、マックウエイン産業博物館、ハンツビル NASA 宇宙ロケットセンターを見学しました。さらにフットボール場ブライアン・デニススタジアム、アラバマ大学のキャンパス、歴史地区では昔の市庁舎跡、歴史的宿泊施設オールド・タバーン、連邦裁判所を回り、市役所でマドック市長に表敬訪問をしました。

アトランタでの最終日、南部料理のレストランで夕食会をしました。日本と比べてどんな違いを感じたか、について派遣生から感想を聞いたところ、誰もが人間性の豊かさ、寛大さ、親切さを挙げていました。

この派遣では、一般の旅行では味わえない異文化体験や、人とのふれあいなどから友情を深める貴重な体験ができたと思います。ぜひこれをこれからの人生に生かしてほしいと思います。

今回の事業は、生徒同士が既知の仲であったこと、NI-Youth 主導の事前研修会、生徒の積極的な行動力が、今回の事業を成功させた要因だと考えています。また無事に旅行を終えることができたのは、同行の先生方、NI-Youth の協力のおかげでした。感謝申し上げます。

平成 26 年度 青少年海外派遣事業を振返って

国際交流部会長 尾黒治夫

習志野市がタスカルーサ市と姉妹都市提携を結んだのは昭和 61 年(1986 年)、双方が定期的に青少年受入・派遣交流を始めたのは平成元年でしたが、平成 19 年(2007 年)を最後に派遣事業は中止され、近年は習志野高校が独自に派遣交流を行ってきました。

一昨年のタスカルーサ市高校生受入の際に、双方担当者は更なる事業展開のための意見交換を行いました。それを機に習志野市国際交流協会(NIA)は、当市の高等学校 4 校全ての生徒たちに「国際人としての素養育成の機会を持ってもらうこと」と、「両国の交流事業拡大」の 2 点を主要テーマとして派遣事業実行委員会を立ち上げました。

昨年 6 月には 4 校に対して「事業への賛同」、「受入・派遣を一体化した 2 事業への参画」を議題に討議を開始しました。以来各校のご理解・ご協力のお陰で企画は急速に具体化し、4 月初旬の NIA 代表者による視察渡米とその報告会、保護者説明会、派遣生への事前研修会、結団式等々と派遣準備は整って行きました。

そして 6 月に来習したタスカルーサ高校生との交流を経て、そのひと月後の 7 月 24 日、いよいよ当市代表 20 名がタスカルーサ市民、友人との再会、そしてその家族との交流のために 2 週間の旅に出かけたのでした。

帰国後の体験発表では、「温かいホストファミリーのおもてなしに感謝し、そこでしか体験することができないことを学び、素直に受け入れることが出来た」、「異文化に接して、自らの生活を見直すきっかけになった」、「更なる英語学習と、これからの国際交流への意欲が大きくなった」、等の感想が述べられました。

国際交流と異文化体験は勿論のこと、外から見た日本、習志野市の他校生徒と親しい友になったこと、学校・父兄・その他の方々への感謝の念、今後の抱負…、その全てが青少年たちにとって貴重な財産となったようです。



タスカルーサ市キャピタル公園で

